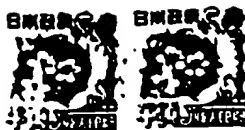


FILED 9/2/00

Abstract (Basic): JP 49132247 A

Short fibres were added to pack prepns. prepd. from film-forming higher mol. wt. cpds. and basic cosmetic materials to improve the pack properties such as drying time and film strength. In an example, a pack prepn. contained poly(vinyl alc.) 10, ethoxylanolin 2, sorbitol 5, glycerol 5, disinfectant 0.5, perf20 80, and acetate fibre D 20 parts.



特 許 局

昭和48年4月24日

特許庁長官 三宅 幸 夫 殿

1 発明の名称

マイソヤブ
ベツク用組成物

2 発明者

カナガワケンオ アワシナミヤ
住所 神奈川県小田原市南町3丁目1番36号
氏名 アノ イヤノ (ほか1名)

3 特許出願人

住所 東京都墨田区堀江5丁目3番26号
名称 (095) 通商株式会社
代表者 伊藤 淳二

4 代理人

郵便番号 534
事務所 大阪市都島区文庫町1丁目3番33号
通商株式会社本部内
氏名 (4180) 青木 水 口 一

① 日本国特許庁

公開特許公報

⑪特開昭 49-132247

⑬公開日 昭49.(1974)12.18

⑫特願昭 48-47124

⑭出願日 昭48.(1973)4.24

審査請求 未請求 (全7頁)

庁内整理番号

⑤ 日本分類

6617 42

31 B0

1 発明の名称

ベツク用組成物

2 特許請求の範囲

皮膚形成能を有する高分子化合物と公知の香料成分を基剤とするベツク剤において、化粧能を含有することを特徴とするベツク用組成物。

3 発明の詳細な説明

本発明は改良されたベツク用組成物に関するものである。

更に詳しくは特定の化粧能の添加によって改良されたベツク用組成物に関するものである。

従来、ポリビニールアルコール等の水溶性高分子を含有するエマルジョン型又はゼリー状型の皮膚形成能を有するベツク剤がよく知られているがこれらのものは一般に乾燥速度が比較的遅くかつ皮膚強度も充分でないに製膜の強度が低くたり皮膚上に皮膚の一部が残留するまど又その香料成分本来の機能を損う欠点があった。

即ちポリビニールアルコール等の高分子化合物を基剤とするベツク剤においては、乾燥速度

をよくする為に又は強度を強くする為にポリビニールアルコールの濃度を高くすることが考えられるが濃度を高くすれば必然的にベツク剤の粘度が上昇して膜に塗布する際のびが悪く又乾燥して制膜する際は皮膚に密着し過ぎて肌と皮毛を引張り痛みを感じたり、又ベツク剤中の原料長が短くなったたりする欠点がある。化粧能本来の具備する条件から選定したものとなる。

一方化粧能本来の具備すべき条件を満たす様にのびを良くし使用感の良好なベツク剤を作るにはポリビニールアルコールの濃度を低くせねばならぬが、ポリビニールアルコールの濃度を低くすれば皮膜が弱くなり制膜が困難となり皮膜が皮膚に残留する等の欠点が生じてくる。

本発明者等は上述の欠点を改良せんとして鋭意研究した結果乾燥能を皮膚形成能を有する高分子化合物のベツク剤に共存含有せしめることにより乾燥速度が著しく早く制膜を容易かつ円滑に行い得ることを見出し本発明を完成した。

本発明の第1の目的は、著しく乾燥速度が早く(生成皮膜の制膜を容易かつ円滑に行い得る)改良されたベツク剤を提供することにある。

他の目的並びに用途は以下の説明から明らかとされよう。

本発明は皮膚形成能を有する高分子化合物を基材とするベツタ剤において、組成能を有することを要とするベツタ剤組成物である。

本発明に使用する皮膚形成能を有する高分子化合物とは、水に容易に溶解又は分散し且つ乾燥時に皮膚を形成する天然高分子又はその誘導体又は合成高分子化合物である。

天然高分子又はその誘導体としては、例えばゼラチン、アルブミン、グルタン、ペクチン等の蛋白質、アルギン酸等の多糖類、ノタルセルローズ、カルボキシノタルセルローズ等のセルローズ系、トラガントガム、アラビアガム等のガム質又は天然ゴムラテックス等を挙げることができる。

合成高分子化合物としては、例えばポリアクリル酸エステル、ポリアクリル酸（又はその塩）、ポリビニルアルコール、ポリ酢酸ビニル等のビニール系単量重合体、酢酸ビニル、アクリル酸エステル、アクリル酸、メタクリル酸、アクリロニトリル等のビニール単量体を二重以

上共重合した共重合体、合成ゴムのラテックス等を挙げることができる。

これら高分子化合物のベツタ剤中の濃度は、一般に2～60%（重量）の範囲内である。高分子化合物の種類によって、最適濃度が相違する。例えば、ポリビニルアルコール等の水溶性高分子の場合は、約20%以上の濃度では粘度が高過ぎて肌へののびが悪く塗布が困難になり、原料臭も強くなり又生成皮膚の乾燥の阻害へ密着し過ぎて肌が痛く又重毛を引張って痛い。また2%以下の濃度では皮膚の形成が困難且つ乾燥に長時間を要するとして皮膚が弱いので創傷が円滑に行われず、また肌に生成皮膚が接合することができる。

エマルジョン型の合成樹脂やラテックス系は、一般に水に分散し低粘度を示すので約10%の高濃度でも用いることができる。

本発明に使用する繊維としては、木綿、羊毛、絹、麻等の天然繊維、レーヨン、アセナート等の化学繊維、ポリエステル系、ポリアミド系、アクリル系、ポリオレフィン系、ポリ塩化ビニル系、ポリビニルアルコール系等の合成繊維

等を挙げることができる。これらの中で羊毛、絹、アセナート、ポリアミド系、ポリエステル、ポリビニルアルコール系等が更に良合に優れているので最も好ましいものである。

本明細書で言う繊維とは、通常の毛織物、複合繊維、及び糸を意味する。

繊維の長さは、短かすぎると本発明の利便の一つである塗布を形成効果がなくなる。又長すぎると繊維群はもつれて、重（まご）となり分散し難くなり、ベツタ剤製造時に、攪拌機にまつわり又充填機にもかからず実用的でない。かかる理由からして繊維の長さは15～30mm好ましくは2～15mmである。

繊維の太さについては最適値ともつれて因子状（だま）になり、製造時に均等に分散し難くなり、また均等にベツタ剤中に分散しても肌に塗布する際にまだらになり、固れて均一にのび難くなる。

又太く走り過ぎると製造時に攪拌機に掛り、製品を腐に塗す際アラツキが出て粘度が低下し易い。かかる理由からして、繊維の太さは1デニール

乃至50デニール好ましくは3～20デニールである。

又繊維はグル又はセリグルでも良く処理されていてもされなくても良い。

繊維の添加配合量はベツタ剤基材によつて相違するけれども通常ベツタ剤中に1～50%（重量）好ましくは5～40%（重量）である。1%より少ないと乾燥速度が遅くなり、耐水性が低下するので好ましくない。また50%（重量）よりも多くなると触感がわるくなる傾向がある。

繊維は、前記高分子化合物の溶液、分散液に直接混合してもよいし、また油類、乳化剤、界面活性剤、乳化安定剤、増粘剤、保護剤、アルカリ剤等の香粧品基材の溶液、分散液や糊状剤、糊液等に混合してベツタ剤を調整してもよい。添加混合する段階に限定されないけれども配合する前記高分子化合物、前記香粧品基材の種類、性質、添加量や繊維の種類、性質等を調査して、繊維が安定にかつ均一に分散、分布するよう適応配合時期を選択することが肝要である。

以上要するに本発明は、皮膚形成能を有する高分子化合物と全知の製品原料を基とするベツタ剤において、微細膜を含有せしめることにより、その乾燥速度を早くし、生成皮膚の創傷を容易かつ円滑に進行し得るベツタ剤であつて、その商品価値は極めて高いものである。

以下実施例により、本発明を更に詳細に説明する。実施例に記載のものは重量百分率を意味し、部とは重量部を意味する。

実施例1

I. 組 方

①	ポリビニールアルコール	10 部
②	エトキシ化ラノリン	2
③	ソルビトール	5
④	グリセリン	5
⑤	皮膚形成剤	0.5
⑥	香料	1.0
⑦	水	80
⑧	アセート酸液(10、40カフト)	20

II. 製造法：28℃にて水⑦中にアセート酸液⑧を分散させる。この中にポリビニールアルコール①とソルビトール③及びグリセリン

④とを添加したものを攪拌しながら添加する。このものを加熱して80℃に達した時、これにエトキシ化ラノリン②、皮膚形成剤⑤及び香料⑥の加熱溶解物を添加して充分攪拌し、次いで真空脱泡し均質して製品とする。

られた製品はのびがよく、使用感良好で、乾燥速度が早い。又創傷の腫脹が微細な為、膜が破れずに一枚の布で取れ、肌や血毛等の痛みもなく創傷部も熱くない。

比較として微細膜を添加しない場合は前記と同様にしてベツタ剤を製造し、次いで同様にその性能をしらべた。これらの結果を第1表に記載した。

実施例2

微細膜を第2表の如く硬化させたアセート酸液を使用する場合は実施例1と同様にして夫々のベツタ剤を製造し、その性能をしらべた。その結果を第2表に示した。

以下余白

表 1

試験項目	本 発 明 (乾燥入り)	比 較 例 (乾燥なし)	備 考
乾燥時間	15分	25分	0.5mmの厚さの膜が乾く要する位の時間
皮膚形成度	500gr	200gr	厚さ0.5mmの膜0.7mmが切斷した重量
使用感	90%	88%	実用テストにて使用感良好と答えた者の百分率。(但し被試験者数30名)
創傷状態	98%	50%	実用テストにて良好な状態にて創傷すると答えた者の百分率。(但し被試験者数30名)

① トリエタノールアミン	0.5
② 防腐剤	0.5
③	1
④ 水	40
⑤ 商品(40番手(より系)10mmカフト)	10

I. 製法

水にトリエタノールアミンを加え、次に
酸液を分散させ70℃に加熱し水相とする。
一方ステアリン酸、酸ロウ、ポリオキシエタ
レンラウリルアルコールエーテル、ソルビタ
ンモノステアレート、防腐剤を70℃にて溶
解し、これを先の水相に添加し乍ら乳化
し攪拌して30℃に冷却する。これにノタ
ナリル酸乳化石合物を添加混合すれば、酸
入り乳状ベツタを得る。
得られたベツタ剤は、酸液を含有しないベツ
タ剤に比較して、乾燥性、皮膚強度、使用感、
刺激性が優れている。

実施例6

I. 処方

① ポリビニールアルコール	5部
② 遊離型カルボキシビニールポリマー	2

軟(粘度約8万センチポアズ)で酸液を含
有しないベツタ剤に比較して、乾燥性、皮膚
強度、使用感、刺激性が優れている。

実施例7

I. 処方

① ポリビニールアルコール	5部
② ステアリン酸	5
③ セタノール	0.5
④ グリセリン	7
⑤ 防腐剤	0.5
⑥ トリエタノールアミン	1
⑦ 香料	1
⑧ 水	80
⑨ ポリエステル(ダム)樹脂酸液	50

4D, 5mmカフト	50%
11D, 8mm	50
3D, 1mm	20

I. 製法

水にトリエタノールアミンを加え、次に
酸液を分散させる。次にポリビニールアル
コールとグリセリンを混ぜたものを添加し70
℃に加熱する。一方ステアリン酸、セタノール

① ポリオキシエタレンソルビタンラウレート	2
② 水溶性ラノリン	2
③ プロピレンジリコール	4
④ ディンプロベノールアミン	1
⑤ 防腐剤	0.5
⑥ 香料	1
⑦ エタールアルコール	5
⑧ 水	80
⑨ ナイロン(セミダム, 15D, 8mmカフト)純樹脂酸液	5

I. 製法

A部: 水の半量に、ポリオキシエタレンソル
ビタンラウレート及び水溶性ラノリン
を溶解する。次に、エタールアルコール
に防腐剤及び香料を溶したものを混入
する。次に遊離型カルボキシビニール
ポリマーを均一に分散させる。
B部: 一方残りの水にディンプロベノールア
ミンを加え、次にナイロン純樹脂酸液を
分散させる。更にプロピレンジリコー
ルとポリビニールアルコールを混合し
たものを、均一に分散溶解させる。

最後にA部とB部とを混合すると、透明ゼリ

ム、防腐剤を70℃に加熱し、先の水相部に
投入乳化し、香料を加えて常温に冷却すれば、
酸入りクリーム状ベツタ剤を得る。
得られたベツタ剤は、酸液を含有しないベツ
タ剤に比較して、乾燥性、皮膚強度、使用感、
刺激性が優れている。

実施例8

I. 処方

① ノタナリル酸乳化石合物(固形分40%)	40
② ステアリン酸	2
③ 酸ロウ	0.5
④ ポリオキシエタレンラウリルアルコールエーテル	0.5
⑤ ソルビタンモノステアレート	1
⑥ トリエタノールアミン	0.5
⑦ 防腐剤	0.5
⑧ 香料	1
⑨ 水	40
⑩ 固40番手(商品)10mmカフト	10

I. 製法

水にトリエタノールアミンを加え、次に
酸液を分散させる。次にポリビニールアル
コールとグリセリンを混ぜたものを添加し70
℃に加熱する。一方、ステアリン酸、酸ロウ、ポリオキシエ

チレンラウリルアルコールエーテル、ソルビタンモノステアレート、防腐剤を70℃にて溶解し、此れを先の水相に混拌し乍ら顔加乳化し、試して30℃迄冷却する。これにメタアクリル酸乳化石合物を顔加混合すれば顔入り乳状液ペフク剤を 得る。

得られたペフク剤は、酸度を含有しないペフク剤に比較して、乾燥性皮膜強度、使用感、耐水性が優れている。

出 願 人 鐘 紡 株 式 会 社

代理人 弁護士 水 口 孝 一

5 添付書類の目録

(1) 明 細 書	1 通
(2) 願 書 冊 本	1 通
(3) 任 状	1 通

6 前記以外の発明

カナガワケンオ 伊ワラシコトブキヤロ
住所 神奈川県小田原市海町5丁目4番3号
氏名 オオ エフ イチ ロウ
大 枝 一 郎

手 続 補 正 書 (自 発)

昭和48年8月20日

特許庁長官 斎 藤 英 雄 殿

1 事件の表示

昭和48年特許願第47124号

2 発明の名称

ペフク剤組成物

3 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 東京都墨田区堤通3丁目3番26号

名称 (098) 鐘 紡 株 式 会 社

代表者 伊 藤 淳 二

4 代 理 人

居 所 大阪市都島区友愛町1丁目3番80号

鐘 紡 株 式 会 社 本 部 内

氏名 (6180) 弁護士 水 口 孝 一

5 補正により増加する発明の数 なし

6 補正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」の項

7 補正の内容

本明細書を次の通り訂正します。

(1) 明細書、第6頁第13行～第14行に記載の「界(面活性剤)」を「界面活性剤」に訂正します。

(2) 明細書、第12頁第13行に記載の「酸」を「酸度」に訂正します。

(3) 明細書、第13頁下から8行目に記載の「5」を「5部」に訂正します。

(4) 明細書、第3頁下から2行目に記載の「メタクリル酸」を「メタアクリル酸」に訂正します。

(5) 明細書、第15頁下から4行目～第19頁第9行に記載の「実施例6一中略一耐水性が優れている。」を削除します。

(6) 明細書、第15頁下から5行目に記載の「耐水性が優れている。」の後に、

「実施例6

実施例1のアセチート組成(4D、4=カフト)の添加量を第3表に示す如く変化する他は実施例1と同様に行つた。その結果を第3表に示した。

第 3 表

配合量	実 験 手 法			製造時の分散及成形後の影響(作業性)
	試 験	乾燥速度 (%)	耐 熱 性	
0	普通	15	不良	-
5	"	15	"	分散性良好、成形容易
10	"	20	良好	"
15	良好	20	良好	"
20	"	20	良好	"
25	"	15	"	"
30	"	15	"	"
40	"	15	"	分散性良好、成形容易
50	普通	10	良好	分散性良好、成形容易
60	悪い	10	不良	分散性不良、成形困難

以上の結果から明らかなように、短繊維の添加配合量は、パフク素材によつて若干相違するけれども通常パフク素材中に1～50%（重量）好ましくは5～40%（重量）、最も好ましくは10～30%（重量）である。

1%よりも少ないと乾燥速度が遅くなり、制塵性が低下するの好ましくない。50%よりも多くなる触感、制塵性、製造時の分散性、作業性が低下するので好ましくない。」を挿入します。